



仙台市宮城野区役所の駐車場には自衛官募集の看板が掲げられている

# 大震災の教訓 人から人へ

## 継承の困難さも報告

### 南三陸で語り部フォーラム

「東北被災地語り部フォーラム」が24日、南三陸町の南三陸ホテル観洋で開かれた。約400人の参加者を前に、語り部活動を続ける各地の団体などが取り組むを紹介し、語り継ぐことの意義について意見を交わした。

「震災の教訓を後世、特に次代を担う子どもたちに伝えることが社の使命」と語った。乗車した参加者には「この列車は『お涙ちょうだい』でなく、みなさんの防災に役立てるためのものです」とあえて説明しているという。

「震災の記憶の継承が難しくなっているとの意見も相次いだ。南三陸町で語り部ガイドを務める後藤一磨さんは、ガイドの依頼が近年大幅に減っていると、

「震災から8年、語り継いでいくことがおぼろげになっている」と指摘した。

同町出身の山内明美・宮城教育大准教授は「風化が激しい中、少数者である語り部には『まだ続けている



パネリストたちが語り部の意義について意見を交わした

語り部活動を紹介する南三陸町立入谷小の佐藤光莉さん(左)と南三陸町の

【名簿の提出】  
気仙沼市、名取市、東松島市、富谷市、大和町、山元町、大和町、南三陸町

【名簿の閲覧】  
仙台市、石巻市、賀城市、大崎市、柴田町、亘理町、大郷町、加美町

悲しい実態がある」と述べ、「協力」は名簿の提出を指すとの認識を示した。「この状況を変えよう」として、憲法に自衛隊を明記するか」という風当たりもある。ここでなくなると、次に何かあった時のために経験を語り継がない」と強調した。

フォーラムは、宿泊客らを対象に「語り部バス」などを続ける同ホテルが主催した。この日は、地元の小

学生たちが自身の体験を発表。町立入谷小5年の佐藤光莉さんは「祖母と曾祖母を奪った東日本大震災を忘れたくありません。経験した私たちが未来に語り継いでいかなければなりません」と訴えた。

(高橋昌宏)

保護条例に違反しないかなど、名簿提出の課題を検討しているが、現時点では提供は難しいだろう」と答えた。

(山本逸生)

里帆子さん(19)。

菊地さんは震災イベントなどで自らの被災体験を語ってきた。周りから「かわいそうに」と声をかけられたことを振り返り、「腫れ物のように扱ってほしくなかった。かわいそうじゃないぞってことを伝えたかった」と話した。

現在東京都内の大学1年生の菊地さんはこの春から米国や中国に語学留学する予定だという。「自分の被災した経験などを、自分の言葉で海外の人たちにも伝えたい」と語った。

制野さんは「長い歴史で見れば災害は常に起こっていて、いつの時代も『災問』や『災前』だという考え方があつた。そういうことを子どもたちに伝えたい」。徳水さんは「ふるさととは子どもにとって人格の一部。それがなくなるのは自分の一部が消えてなくなるのと同じ。震災後の子どもへの教育の大切さを感じた」と話した。

(山本逸生)

## 「経験 海外へ伝える」

### 当時の教諭・児童が語るシンポジウム



東日本大震災時に学校の先生や小学生だった人たちの体験を聞くシンポジウム「子どもたちへ」(3・11を語りつぐ会主催)が24日、仙台市青葉区で開かれ、被災体験を語り継ぐ大切さを語り合った。

登壇したのは、元東松島市立中学校の教諭で和光大准教授の制野俊弘さん(53)、元石巻市立小学校の教諭で東北工業大非常勤講師の徳水博志さん(65)、名取市立関上小学5年生の時に被災した大学生の菊地

シンポジウムで登壇した(右から)徳水博志さん、菊地里帆子さん、制野俊弘さん。仙台市青葉区

2-6  
1116  
1119  
0647  
7060  
0163  
1251  
3002  
com  
1131  
1763

気 10時  
10  
10  
10  
10  
石巻 白石 1.5m  
西 1.5m  
最低 2  
最高 3  
1  
石巻 白石 1.5m  
西 1.5m  
14.26  
1.22

超える！ 70点の力  
河内さん  
市職員とし  
古墳や土偶  
けている。一  
は古墳のフ  
図、旅行記

心のこころ……相みのリゾート  
角神温泉  
スキー  
翌日に  
蔵王町遠  
場「みや  
スノーパー  
2時50分ご  
克樹さん(6  
野区IIが駐  
ら滑落した  
牛一頭い